

原田 澄



トウネズミモチ(唐鼠糞)
<モクセイ科：イボタノキ属>

中国原産の常緑小高木。明治初期に渡来。塩害や大気汚染に非常に強く、公園樹や緑化樹として植えられている。実はヒヨドリなどの野鳥の大好物。種子を散布するので庭先や林のあちこちに生え、環境省から要注外来生物に指定されている。葉は長さ6～12㎝、全縁で対生に付き初夏に多数の白い花を付ける。実は直径5～6㎝、黒紫色のネズミの糞ふんに似ている。名前は、日本の在来種ネズミモチの仲間仲間で、中国の唐からきていることに由来する。ネズミモチより葉が大きく、日にかざすと葉脈が透けて見える。・・・▼生垣の下で青々とした葉をのぞかしていたこの子は？はて？名前は？「常緑」「全縁」「対生」のヒントにて検索。結果、トウネズミモチと判明。▼度々訪れるヒヨドリの仕業か、緑の少ないこの季節には良く目立つ。横に目を移せば、花を付けたオオイヌノフグリ。寒さの厳しいこの季節に思わず、ほっこり・・・

～湯来町 2025・1～